

2012 年度入学試験

訂 正

記号 112-SQ-W

問題訂正

世界史 B

8 ページ 地図 1

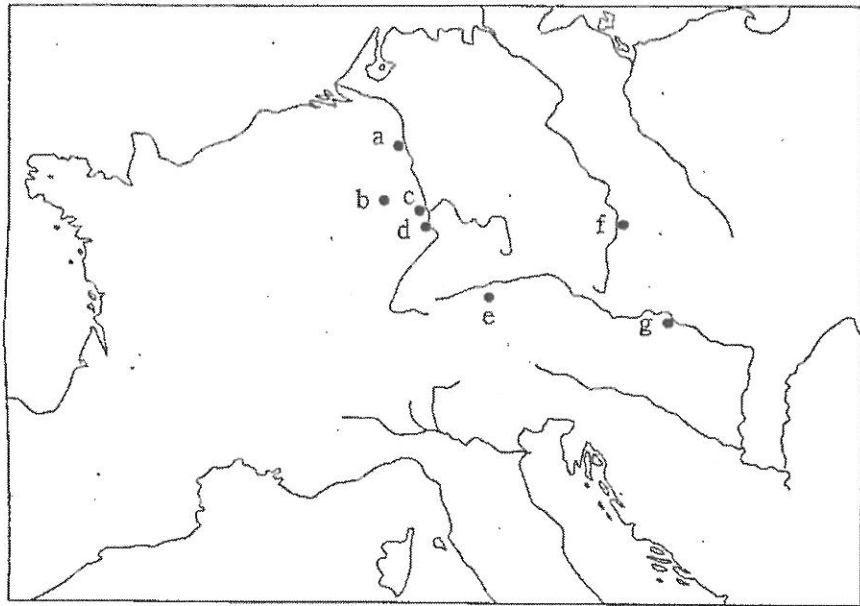
問題冊子の地図 1 は参照せず、配布された別紙の地図 1 を参照すること。

別紙

世界史 B

8 ページ

地図 1



2012 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 10:30～11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I つぎの文章 (A~C) は、18 世紀ごろまでのアフリカの歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(34 点)

A 人類誕生・^{ようらん}揺籃の地とされるアフリカ大陸の歴史を、その土地の文字史料に基づ
^(a)き語ることは難しい。アフリカと接触した外部世界に残る文字記録や、考古学、民族学者・文化人類学者による口頭伝承の研究をよりどころとして、歴史の断片を拾い上げ再構成するという方法がとられている。

エジプトを除くともっとも古いアフリカ人の王国とされるクシュ王国は、交易路の支配によって栄えた。アッシリアの進入を受けて南下後退し、メロエに遷都してからは、進んだ製鉄技術と商業で繁栄した。前 2 世紀ごろに、^(b)アラビア半島から移住したセム語系の人びとがアビシニア高原に築いたのが (1) 王国である。この王国は版図を広げ、地中海から紅海を経てインド洋にいたる交易によって繁栄した。エジプト在住のギリシア人が 1 世紀に著した航海案内書『(2)』は、

(1) 王国の首都が内陸部から運ばれてくる象牙の集散地であると記している。

(1) 王国は、4 世紀になると、クシュ王国 (メロエ王国) を滅ぼし、キリスト教をとり入れて国教とし、^(c)アフリカ大陸において特異な文化を形成した。

古代エジプトや (1) 王国の文化、カルタゴを中心とするフェニキア文化、ローマ文化は、サハラ以南のアフリカには影響を深くおよぼすことなく、根をおろさなかった。

B サハラ以南のアフリカで王国が相次いで形成されたのは、地中海沿岸のアラブ人たちが「ビラード・アッ=スーダーン (黒い人びとの地)」と呼んだ地域である。地中海沿岸の産物とサハラ砂漠で採取される [あ] がこの地域に運ばれ、それと交換に [い] や奴隷が地中海世界に運ばれた。この交易を基盤に 8 世紀以前からガーナ王国が栄えた。イスラーム商人の来訪とともにイスラーム教も広まって^(d)いったが、ベルベル人が建てた (3) 朝が、11 世紀、ガーナ王国に侵攻したことはイスラーム化をいっそう促進した。

ガーナ王国の衰退後、マリ王国が興隆した。マリ国王ムーサのメッカ巡礼は、[い] で栄える王国の評判を伝説化し、海路この一帯に到達しようというヨ-^(e)

ロップ人の探検航海の1つの起動力になった。マリ王国の衰退後に勢力を拡大したのが、ガオに首都を置く(4)王国である。マリ王国・(4)王国の中心地トンプクトゥは、交易都市としてばかりでなく、イスラームの宗教指導者や学者^(f)が集まり、大学・学校やモスクが建てられて、宗教・学芸都市としてもその名が広く知られていた。

C アフリカには、アフリカと外部世界との交流によって都市が形成された歴史がある。世界文化遺産に登録されている「大(5)遺跡」は、11世紀から18世紀にかけて建設されたとみられる巨大な石造建築遺跡である。(5)とは、現地の言葉であるショナ語で「石の家」を意味し、この地方に古くから石造の住居を建設する文化伝統があることがわかっている。また、遺跡のあるこの一帯は、アフリカ^(g)の外の世界と交流していたと考えられている。「大(5)遺跡」よりも北の海岸部には、モガディシュ・マリンディ・モンバサ・ザンジバル・キルワといった港市に交易拠点がつくられた。これらの港市がある一帯では、(6)と呼ばれる、三角帆をつけた縫合船により、季節風を利用した外部との交流・交易が早くからおこなわれていた。やがてムスリム商人が住みつき、アフリカからは象牙や奴隷などが移出され、外部世界のさまざまな文物がアフリカにもたらされ、この地域にスワヒリ文化が誕生し、内陸部にまで普及した。15世紀には(7)を司令官^(h)とする明の遠征航海の分遣隊がモガディシュ・マリンディなどに到達し、土産としてキリンを皇帝に献上したとの記録が中国に残っている。

設問1 空欄(1～7)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、(7)には人名が入る。

設問2 空欄 [あ]・[い] に入るもっとも適切な語句を、下記の語群 (①~⑫) のなかから選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

【語群】

- | | | | |
|----------|--------|---------|------|
| ① 亀甲 | ② 金 | ③ 銀 | ④ 胡椒 |
| ⑤ 琥珀 | ⑥ コーヒー | ⑦ コーラの実 | ⑧ 塩 |
| ⑨ ダイヤモンド | ⑩ 肉桂 | ⑪ 皮革 | ⑫ 没薬 |

設問3 下線部(a)について。1960年代に発見され、出土した地層から約200万年前に出現したと推定される、「器用な人」の意味をもつ猿人の名称を答えなさい。

設問4 下線部(b)について。この都の位置を4ページの地図の記号 (ア~ソ) のなかから選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

設問5 下線部(c)について。国教とした王にキリスト教の教えを授けるにあたり、重要な役割を果たしたアレクサンドリア主教の説を奉ずるキリスト教の宗派は何と呼ばれるか。その名称を答えなさい。

設問6 下線部(d)について。ガーナ王国の場所を4ページの地図の記号 (a~f) のなかから選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

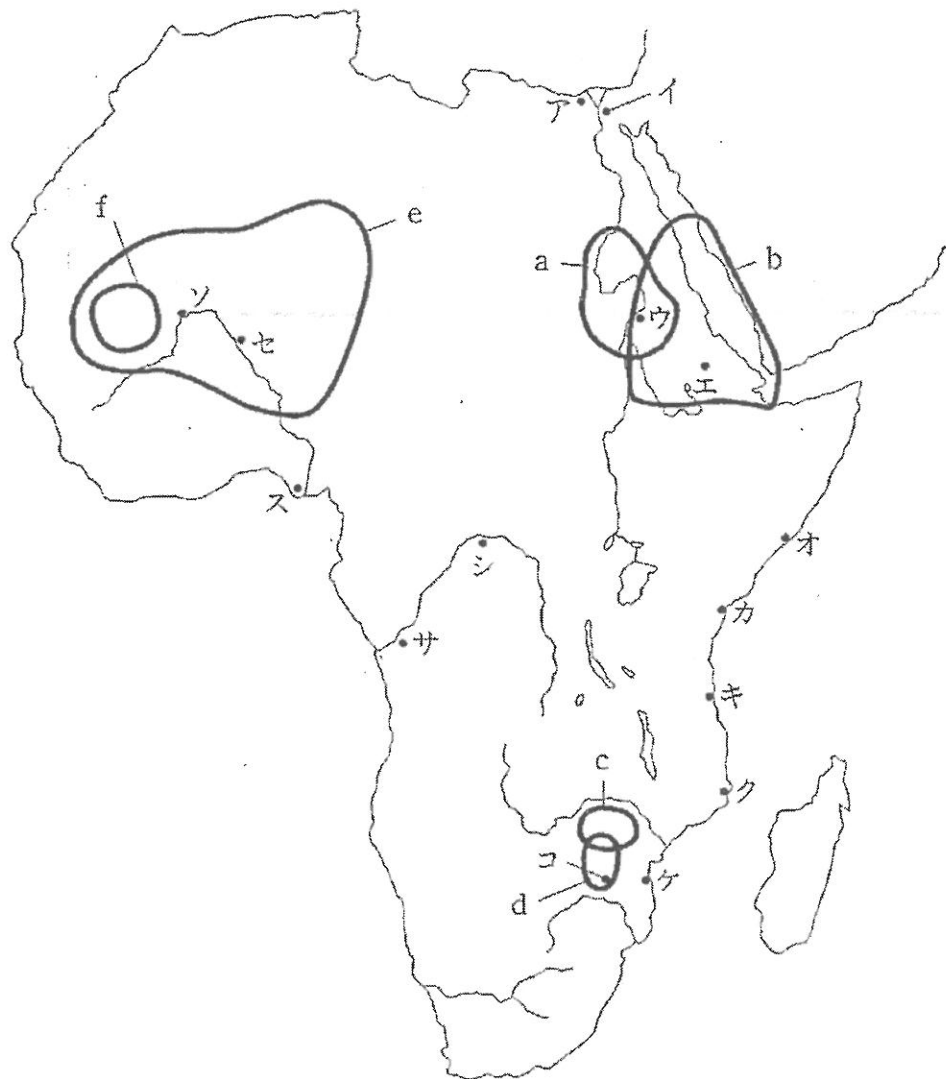
設問7 下線部(e)について。探検航海の先陣を切ったのはポルトガルだったが、ジョアン1世の第3子で、海外発展の礎を築いたのは誰か。その名前を答えなさい。

設問8 下線部(f)について。この都市の位置を4ページの地図の記号 (ア~ソ) のなかから選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

設問9 下線部(g)について。この一帯がアフリカの外の世界と交流していたと、なぜ考えられるのか。その根拠を 30 字以上、45 字以内（句読点を含む）で答えなさい。

設問10 下線部(h)について。スワヒリ文化に関するつぎの記述（あ～う）は正しいか。それぞれについて、正しいければ①を、誤っていたら②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. スワヒリとは、バントゥー語で海岸地帯を意味する言葉に由来する。 |
- い. バントゥー語とアラビア語がまじりあってスワヒリ語が成立した。 |
- う. スワヒリ語はイスラーム教を広めるための宗教用語として成立した。 ✓



II つぎの文章 (A・B) は、それぞれ西ヨーロッパと中国を代表する大河をめぐる歴史に関するものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

A ライン川は、西ヨーロッパの経済・文化を語る上で欠かせない存在であり、左岸側と右岸側との対立や融和が生み出す政治的ダイナミズムもまた、周辺世界に大きな影響を与え続けてきた。

カエサル『(1) 戦記』に記録されている紀元前 55 年および前 53 年のライン渡河作戦は、左岸の支配を確立しつつあったローマ帝国が右岸のゲルマニアを牽制した事件である。9 世紀のカール大帝の死後、843 年のヴェルダン条約によって分割された 3 国のうち東フランクとロリタンギア (中部フランク) の境界がおおむねライン川に沿っていたが、870 年の (2) 条約により最終的に流域を東フランクが支配することになった。これにより中世のラインは「ドイツの川」となり、ケルン・トリーア・マインツに司教座が置かれ、その権勢のもとに美しい城や聖堂が建設された。^(a) 13 世紀にはライン川はイタリアとネーデルラントを結ぶ流通路としての役割を確立し、南のロンバルディア同盟と北のハンザ同盟という 2 つの商業圏を結ぶ中世ヨーロッパ経済の動脈となった。

しかし 16 世紀以降に中央集権による軍事力強化を進めたブルボン王朝下のフランスは、ハプスブルク帝国に対抗するべく三十年戦争に介入し、ライン右岸への侵入を繰り返すことになる。^(b) 1648 年のウェストファリア条約によりラインの源流であるスイスや河口部のオランダの独立が国際的に承認され、ラインは「ドイツの川」とは言えなくなった。その後もルイ 14 世がプファルツ (ファルツ) 戦争でハイデルベルクを焼き払うなど、ラインを挟んだ独仏対立は激化した。フランス革命後も対立の構図は引き継がれ、ナポレオンが (3) の戦いでオーストリア・ロシア連合軍を破り、翌 1806 年、西南ドイツ諸国にライン同盟を結成させたことで、名目的にも実質的にも神聖ローマ帝国は解体された。1870 年に始まる普仏戦争では、逆に右岸のプロイセン軍が「ラインの護り」を歌いながら左岸へと渡河し、パリへと進撃していった。この戦争の結果アルザス・ロレーヌはドイツに割譲された。ところが第一次世界大戦をうけて 1919 年 6 月に調印されたヴェルサイユ条約は、再びアルザス・ロレーヌを含めたライン流域からドイツが後退することを意味した。

このヴェルサイユ体制に対するドイツ側の報復感情が表現されたのが、第二次世界大戦への導火線の1つとなる1936年のラインラント進駐である。

第二次大戦後結ばれた、いわゆるエリゼー条約で、ようやく独仏両国は三十年戦争以来の宿敵関係を清算すると宣言した。この戦後まもない時期に、両国の融和に決定的役割を果たした独仏の政治家、アデナウアーおよび（4）が、それぞれケルンとロレーヌの出身であったことは、決して偶然ではない。独仏およびベネルクス3国の国境に近いルール地方が産炭地かつ鉄鋼業の中心であったことから、独仏を中心に6か国が石炭鉄鋼生産を共通市場で扱うという1951年の条約は、ライン川を独仏融和さらには欧州統合の象徴へと意味転換させた。条約の基本構想として前年に発表された（4）=プランには、「石炭鉄鋼の統合は、長年兵器の生産に専念してきたこれらの地域の運命を変えるであろう」という一文がある。

B 東シナ海に注ぐ黄河と長江は、肥沃な大地をもたらすとともに、しばしば大規模な治水・利水事業をおこなう専制権力を導いてきた。したがって中国史は、大河流域の生産力と交易網の発展史として描き出すこともできる。

前5000年ころに起こった黄河文明は彩文土器などを生みだしつつ、はやくも前16世紀ころまでに殷と呼ばれる王朝を生み出した。長江の流域一帯は温帯に属し、照葉樹林と湖沼が広がる湿潤な地域であるため、やはり前5000年前後には小規模な耕作文化が育まれていた。たとえば浙江省の（5）遺跡からは稲籾や多くの骨製の鋤が出土している。

前770年以降の東周後半期には「戦国の七雄」が群雄割拠する時代を迎えたが、このうち長江流域に拠った（6）以外の6国は、黄河の恵みによって人口を養う華北を勢力範囲としていた。後漢末の3世紀にも流域は争乱状態となり、魏・呉・蜀が分立する三国時代を迎えるが、三国が戦火を交えた激戦地が、長江・黄河流域に記録されている。淮河を挟んで黄河と長江が本格的に結ばれたのは、隋唐時代に建設された大運河のうち（7）渠および邗溝（山陽漕）を経由することによってである。なお、江南の開発はそれ以前から始まっており、東晋から陳までの南朝の首都は建康（建業）に置かれていた。華北の戦乱を逃れた人々が江南に移住して開墾に勤しみ、様々な農業技術や土地改良をこころみ、稲作生産は飛躍的に発

展した。生産力向上に伴い鎮や市と呼ばれる新興都市が生まれ、手工業が発展した。こうして宋代にかけて長江流域から華南の沿岸部で大幅に人口が増加し、貿易を管理する役所である（ 8 ）が新たに置かれた杭州・泉州・明州などを拠点にして、南海諸国との交易も盛んとなった。

明代に入って（ 9 ）帝は大運河を改修して華北と江南を結んだ。また桑・麻の栽培が進んだほか、台地や砂丘地帯でも綿作がおこなわれ、甘藷も栽培されるようになった。このような産業発展は実用的な学問^(d)の発展にも結びついた。「清の平和」と呼ばれた17～18世紀には、拡大した領土を基盤に山間部や辺境地帯での開拓が進んで、農耕地の総面積は明代の約2倍に達したが、人口急増を吸収しきれなかったため、東南アジアなどに移住した「華僑」も多く生まれた。清は18世紀半ば以降、広州を唯一の貿易港として、特許商人の組合である（ 10 ）に对外贸易を請け負わせた。（ 10 ）はアヘン戦争をうけて廃止されるが、これら商人たちが競って珠江のほとりに建てた商館は、中国経済のエンジンと言われる今日の珠江デルタの繁栄を予言するものになった。

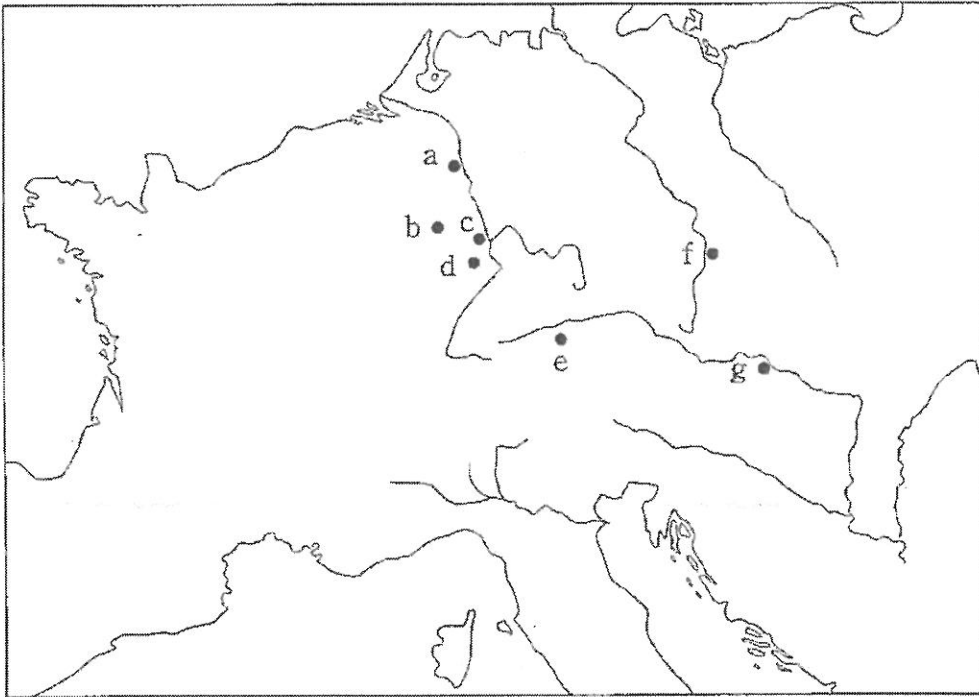
設問1 空欄（1～10）に入るもっとも適切な語句を答えなさい。

設問2 本文中に波線を引いた5都市（ケルン・マインツ・建康（建業）・杭州・広州）の位置は、地図1（a～g）・地図2（h～m）のどこにあたるか。マーク解答用紙にマークしなさい。

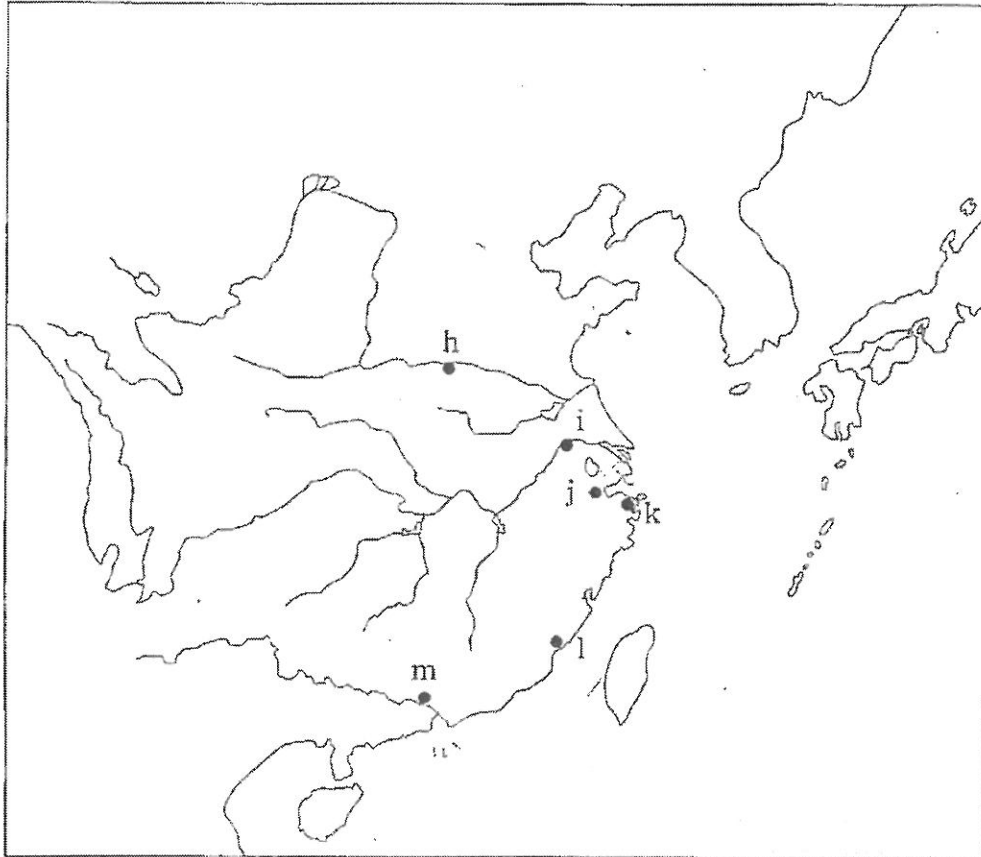
設問3 下線部(a)について。この三大司教に加えてプファルツ伯（ライン宮廷伯）は、いわゆる七選帝侯に列せられており、ライン流域が強い影響力を持っていたことが分かる。この七選帝侯を定めた1356年の文書は何と呼ばれるか。また、そのときの神聖ローマ皇帝は誰か。文書の名称と皇帝の名前を答えなさい。

設問 4 下線部(b)について。ハプスブルク家は国境を越えた婚姻政策により版図を拡大し、15世紀中葉以降は神聖ローマ皇帝を世襲するようになった。その中で1521年のヴォルムス帝国議会でルターに自説の撤回を求めた皇帝は誰か。その名前を答えなさい。またヴォルムスの位置を地図1(a～g)から選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

地図1



地図2 (明代の地図)



設問5 下線部(c)について。この条約により翌年ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体が発足した。その5年後には、同じ参加国によりヨーロッパ経済共同体 (E E C) を発足させるための条約が結ばれた。後者の条約の名称を答えなさい。

設問6 下線部(d)について。綿花栽培の定着に伴い、織機や衣料技術が発展したが、他に鑄造や醸造なども含めて産業技術を集大成した書物として、明代の『天工開物』がある。この書物を著したのは誰か。その名前を答えなさい。

III 歴史の事象は、後にさまざまな解釈がなされるものであるが、つぎの文章（A～C）は、冷戦がいつ、どのように終わったかについての解釈の変化が、その後の国際政治に影響を与えたことを概観したものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。（32点）

A 冷戦時代、米ソは厳しい対立関係にあり、両国ともに競って軍事力の拡大をおこなっていた。このことは、特にソ連にとって経済的負担となっていたため、1985年にゴルバチョフがソ連共産党の書記長に就任すると、緊張緩和へと対外政策の方針転換をはかった。彼は核実験の停止を発表するなど、^(a)それまでの軍拡路線から軍縮へと軌道を修正し、1987年には、アメリカの（ 1 ）大統領との間で、中距離核戦力全廃条約を締結・調印した。また、1989年には、アフガニスタンからの撤退を完了させた。

1988年3月には、ゴルバチョフは（ 2 ）宣言で、東欧の社会主義各国の体制選択が自由であるとし、ソ連の指導権を事実上否定した。^(b)これ以降、東欧革命が一気に進んでいくことになる。

ソ連自らの改革路線であるペレストロイカや（ 2 ）宣言は、ソ連の東欧諸国への軍事介入の可能性が低いことを示し、すでに改革路線への歩みを進めていたポーランドやハンガリーに追い風となった。^(c)ポーランドでは、1981年以降（ 3 ）首相により弾圧されていた自主管理労組「（ 4 ）」が、1989年には合法化され、その後の選挙で圧勝した。また、ハンガリーでは、1980年代後半に政治改革が進み複数政党制が導入され、1989年に隣国オーストリアとの国境の自由往来が認められた。その結果、ハンガリーを経由した東ドイツ市民の西側への流出に歯止めがからなくなった。さらに、ライプチヒやドレスデンなど大都市での民主化を求めるデモも広がり、ついに東ドイツでは、ドイツ社会主義統一党書記長である（ 5 ）が失脚した。その後の政権も流動化する事態を掌握できないまま、1989年11月には、冷戦のシンボルであったベルリンの壁^(d)が市民の力により開放された。そして、同年12月には、米ソの両首脳が（ 6 ）で会談し、冷戦の終焉を宣言した。

この1989年時点での冷戦の終わりは、ソ連のゴルバチョフの対外政策の修正と

それに応じたアメリカ・西側諸国との和解としてとらえられる、冷戦の「第一の終わり方」である。

B ベルリンの壁の開放とともに、東西ドイツの統一は一挙に現実味を帯びた。1990年3月の東ドイツの自由選挙で、早期統一を求める勢力が勝利すると、西ドイツが東ドイツを吸収する形でドイツの統一が実現した。さらに統一ドイツが、冷戦を特徴づけるアメリカ中心の対ソ軍事同盟である（ 7 ）に残留することになった。

また、ソ連は、冷戦期に軍事支援を行うなどイラクと緊密な関係があったにも^(e)かわらず、そのイラクが1990年8月にクウェートに侵攻した際には、政治的解決にイニシアチブを発揮することはできず、アメリカの政策に追随していくほかはなかった。1991年に国際連合の決議を経てアメリカ軍を中心とする多国籍軍がイラクをクウェートから排除して圧倒的勝利をおさめると、ソ連の大国としての地位の低下は明らかとなった。そして、1991年にソ連自体が解体するにおよんで、冷戦の終わりは、アメリカの一方的勝利、ソ連の敗北という形の「第二の終わり方」として解釈されるようになった。文字通り「唯一の超大国」となったアメリカの対外政策は、後に「アメリカ帝国」論を呼び起こすほどのものになった。

C クリントン政権は、国内政策に重点をおき、対外的には国際協調主義をとっていた。しかし、この間もアラブ諸国の間では、湾岸戦争を契機としたアメリカの影響力拡大への反発が強まり、イスラーム復興運動への支持者が拡大していった。そして、イスラーム過激派組織の一つである（ 8 ）は、反米聖戦を呼びかけ、テロ活動を開始した。2001年9月11日同時多発テロ事件は、（ 8 ）によるものとされ、アメリカの（ 9 ）大統領は、対テロ総力戦を宣言し、同盟国の支援を得て、この組織の拠点であるとしてアフガニスタンに攻撃をおこなった。これ以降、アメリカは本土防衛を理由に、国際協調主義よりも（ 10 ）主義へと大きく傾斜していった。さらに、2003年に（ 9 ）大統領は、多くの国の反対にもかかわらず、イラクに宣戦布告し、サダム=フセイン政権を倒した。

^(f)アフガニスタン・イラク両国は、依然として不安定な状況が続いている。一方、アメリカにとっての戦争の代償は大きく、オバマ政権では国際協調主義へと回帰し、

冷戦の「第二の終わり方」の脈絡の中で語られた「アメリカ帝国」論も、影をひそめた。

設問 1 空欄 (1~10) に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、(1) (3) (5) (9) には人名が入る。

設問 2 下線部(a)について。ゴルバチョフの打ち出した対外政策の方針を何というか。その名称を答えなさい。

設問 3 下線部(b)について。これ以前のソ連の東欧政策の指針は、社会主義諸国全体の利益が各国個別利益に優先するとし、民主化運動弾圧のための軍事介入を正当化するものであった。この指針を何というか。その名称を答えなさい。

設問 4 下線部(c)について。ポーランド・ハンガリー以外の東欧の政治体制の変動に関するつぎの記述 (あ~う) は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. チェコスロバキアではピロード革命がおき、1968年の「プラハの春」の主導者でもあったドプチェクが大統領に就任した。

い. ユーゴスラビアではミロシェビッチ大統領の死後、民族対立が表面化、内戦へと陥った。

う. ルーマニアでは、治安警察による反政府デモの鎮圧が流血の惨事をまねき、チャウシェスク体制は崩壊した。

設問5 下線部(d)について。以下(あ～え)は、ベルリンの壁の構築以前におきた米ソ冷戦に関連した事象である。古い順に並べると、それぞれ何番目になるか。該当する順番の数字をマークしなさい。

- あ. ベルリン封鎖
- い. 鉄のカーテン演説
- う. ワルシャワ条約機構の設立
- え. トルーマン=ドクトリンの発表

設問6 下線部(e)について。1958年の革命によって王政から共和政に変わる以前のイラクが加盟していた対ソ軍事同盟を何というか。その名称を答えなさい。

設問7 下線部(f)について。イラク戦争に関係する出来事のつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて正しいければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. 日本は、イラク復興支援特別措置法を国会で可決し、自衛隊を派遣した。
- い. イギリス・フランスもアメリカとともにイラクに武力攻撃を発動した。
- う. 戦争後、イラクが大量破壊兵器を保有していたことが明らかになった。